

所のたより

神奈川県第二宗務所

発行所

神奈川県横浜市神奈川区台町3-1

本覚寺会館内

曹洞宗神奈川県第2宗務所

電話 045 (322) 2417

FAX 045 (322) 2418

<http://sotokana.2.sakura.ne.jp>

Email:soto.kana2@gmail.com

所長ご挨拶

所長 龍昌院住職

石澤 昭信



宗務所管内ご寺院諸老師・ご家族様におかれましては、益々ご清祥にてご活躍の事と拝察申し上げます。

任をいただいております。折り返し点を過ぎましたが、令和2年度の宗務所事業運営は新型コロナウイルス流行の影響を大きく受けました。本年度もすでに計画の変更が余儀なくされておりますが、感染拡大防止に努めながら事業を進めております。直近では、3月末に予算所会を開催し予算・事業計画等を管内ご寺院様へ報告することができましたが、寺族会、詠範会、婦人会の総

会は書面決議となりました。5月10日に予定しておりました人権擁護推進委員会は、蔓延防止等重点措置が発令される状況に鑑み中止いたしました。6月は決算納入所会を開催いたしました。宗務所主催梅花流檀信徒講習会、梅花流特派講習会、宗務所検定会につきましては中止の選択をいたしました。このような時節柄、致し方のないことではあります。それぞれの集会で育まれた旧交を温めることが難しいのは大変残念なことです。お顔を見て、笑顔でなに気兼ねなくお話しし、共に学べたことがいかに貴重であったか、楽しい時間であったか、身に染みるような一年でございました。新しい生活様式に慣れる事にも個人差があり、また持病のある方は日々

心労も募ったと思います。まだまだ厳しい状況ですが、ワクチン接種が始まり生活環境に少しずつ良い変化が生じてくれることを願います。最近のニュースで、仏教のふるさとインドの深刻な状況が報道され大変心が痛みました。医療用酸素が足りない為に苦しみが及ぶと亡くなる人が多数出ているという報道で、画面に映される人々の姿は直接的にこの感染症の恐ろしさを訴えかけてきました。病に罹ったご本人の苦しみに加え、大切な家族を救えないと悲嘆にくれるご家族の身を切られるような苦しみや悲しみまでも、まざまざと映し出されます。またその奥には、とめない緊張状態が続く医療従事者の方々やそのご家族の尽力や苦しみも、察するに余りあるものであります。ひとつのニュースから何を受け取るかはそれぞれだと思いますが、わたしは人々

の深い苦しみを思いやることのできるような心を多くの方が持てたら良いと思います。そして、医療従事者の負担を少しでも減らすために、お一人おひとりが感染を防ぐための合理的な行動をとっていただきたいと思います。まだまだ自粛の二文字を忘れてはいけません。現状の中ではございますが、後期事業が無事に開催できますよう努めてまいります。何卒今後ともご助力ご法援の程、よろしくお願い申し上げますと共に、ご自愛ください。一言といたします。



ご挨拶

宗議会議員 普門寺住職 砂越 隆侃



との接触において感染症対策等を理由とした過度の対策を避けることは、人権侵害やその行為、態度等に気を配らなければ成らないものと存じます。コロナの正体である新型コロナウイルスについては、不理解な事が多く有ります。コロナ禍の「禍」に付いても、流行語新語でタイトルをかざすためにマスコミ各社が使いだしたと理解する所ですが、意味を辞書などで見ますと「災害、わざわい」の意味と解説され、新型コロナウイルス感染症対策等の具体的内容に合致せず、マスコミ各社が便宜的に使ったものと存じます。私はマスコミ各社の不適切便乗と感じております。

管内御寺院様におかれましては、お障りもなくお過ごしのことと拝察申し上げます。さて、曹洞宗のスローガン「人権・平和・環境」の指標は、ご周知の通りで今さら管内御寺院に対して訴える必要の無いことかと存じます。変わることが無いというところが第一に肝要な部分であると私は認識しておりますと共に、人権を特に大事と受けとめスローガンに則した話題を寄稿するものであります。

各管内御寺院様でも御檀様への対応には最大の心配りをされ、対策を取られておられる事と存じます。宗務所行事も制限がある中、中止・

延期と余儀なくされており。今後、元の社会生活に戻れることは、まだしばらくは待たねばならないように推察されます。

六月議会が、開催中止となりました。管内御寺院様におかれましては、議会に御意見・御要望が多々お有りかと存じます。関係各位皆様の声を御拝聴出来れば、幸甚と存じる次第でございます。皆様に御健康に充分御留意され、愈々山門繁栄ならん事を御祈念申し上げます。



ご挨拶

宗議会議員 宗三寺住職 服部 直哉



今、宗門は変わらなければならぬ時に来ています。今までも様々な提案、提言を受けておりましたが、なかなか前進する事なく後手に回っていたのが事実であります。

今年こそは新しい形の宗務行政を確立し、管内だけでなく中央包括行政を今一度考え直し、個々の御寺院と向かい合い、円滑な寺院運営が成される事に尽力する所存でございます。世の中ではリモートワークや印鑑の電子化から、様々な手続きが安全かつ迅速に行われる時代となりつつあります。古き良きものは残しつつ、改善するべきものは変えて行く事を御約束し、大変不躰ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

昨年は、年明けから新型コロナウイルスの蔓延という未曾有の国難の中、色々な地域行事やイベントが中止となりました。宗門内、宗務所内においても様々な大会や講習会などの宗務所行事も中止となり、管内御寺院及び婦人会、檀信徒の皆様が於かれましては、大変不自由な一年となられました事を衷心よりお見舞い申し上げます。オリンピックの延期や様々な規制により、山門行事を縮小された御寺院が多い中でも、施食会等での対応に苦慮されながら檀信徒との絆をより一層深めていただきました事を心より感謝いたします。

今年一年、管内御尊董老大宗師並びに山内の皆様と檀信徒のご健勝を冀い、山門興隆と山内安全、疫病退散を祈念申し上げます。

ご挨拶

第一教区 萬徳寺副住職

青年同志会 会長 横山 和宣



神奈川県第二宗務所管内御寺院様には日頃より神奈川県青年同志会の活動にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私が令和元年五月に同志会会長を拝命してからの二年間、任期のおよそ3/4の期間を、このコロナ禍において活動はおろか、後半においては予定を立てることも難しい状態でした。

当初会長就任までの準備期間がおよそ四ヶ月ありましたので、その間任期中の活動内容を思い描き楽しみにもしておりました。しかしそのほとんどが叶わず今では受け入れているものの非常に悔しい思いが残ります。

コロナ禍ということで、会長留任の話もありましたが、私の卒業の年も近づいてお

布教化研究会の活動について

第九教区 梅宗寺住職 布教化研究会事務局長

宗務所布教師 舘盛 寛行



りますので予定通り令和三年の定例総会までの任期とさせていただきます。それに伴い令和三年一月の臨時総会において次期会長も決まりました。次の会期は青年同志会創立六十周年の年に当たります。そのころにはワクチンも行き届き、新型コロナウイルス感染症が落ち着くよう祈念し、周年事業が大円成できますよう私も一會員として努めてまいります。

任期中は宗務所役員の皆様並びに管内御寺院様、賛助企業様、青年同志会役員会員諸兄から多大なる御法愛、御助力賜りましたこと感謝申し上げます。またこのコロナ禍において共に青年同志会を支えてくれた執行部の皆に重ねて感謝申し上げます。

最後となりますが管内御寺院様におかれましては青年同志会に対し引き続きのご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。二年間ありがとうございました。

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議および研修会の開催を中止させていただきましたが、これまで布教化研究会（以下、布教研とする）では一人でも多くの宗侶が積極的に布教化を行えるようになることを目指し年2回の研修会を実施してきました。

第1回研修会では管長告諭、布教化方針をもとに、特派布教師とともに法話の作り方を学ぶ研修を企画していました。毎年、管長のおことばが発せられ、曹洞宗の布教化方針が発表されます。本年度は瑩山禅師様のおことばである「人人悉く道器なり」を中心とし、SDGs（持続可能な開発目標）の活動にもつながる誰一人として取り残されることのない世界

を見据えた私たちの生き方」についての告諭でした。私たちは宗侶として、管長のおことばを受け、仏法を布教し、人々を教化していく務めがあります。研修会では管長告諭に示された仏法を確認しながら、仏教用語や引用文献の基本的な解釈を学ぶとともに、法話の作り方の基本を学び、日々の檀務へとつなげていくことを目的としました。

第2回研修会では「坐禅を好きになってもらうためには」をテーマとして、坐禅の指導法を学ぶ研修を企画していました。坐禅は私たち宗侶が最も布教すべき教えですが、限られた時間で坐禅の坐り方とともに、道元禅師様のお示しになられた「ただ坐る」という只管打坐や身心脱落の坐禅を指導することの難しさは実感されていることと思います。また、坐禅を続けてもらうために、何をどのように伝えれば良いのかという課題もあります。

そこで、講師として曹洞宗総合研究センター主任研究員

であり、坐禅未経験者を減らすため、「もう一度やりたくなる坐禅」をコンセプトに様々な場所で坐禅会を開催している小杉瑞穂師を迎え、坐禅をしながらともに学び合う研修を考えていました。

布教研では、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きましたら、改めて研修会を企画し、皆様とともに布教化についての学びを深めていきたいと考えています。今後とも布教研の活動にご理解ご協力をいただき、ぜひ研修会へご参加いただければ幸いに存じます。よろしく

お願いいたします。



「飯に逢うては飯を喫す：故板橋禅師様の思い出」

第五教区 倫勝寺住職 馬場 義實

昨年七月五日、大本山總持

寺前貫主、板橋興宗禅師がご遷化なされました。世壽九十四歳でした。福井県越前市の御誕生寺で療養中でありましたが、薬石効無くお亡くなりになりました。

故板橋禅師様のさまざまな功績は私がお話しできるようなことではありませんが、少しばかりご縁のあったことを書かせていただき、品位の増崇を祈念するものであります。

平成六年十月、宮城県仙台市の輪王寺で大授戒会が行われました。その法要にご縁をいただいで、私は典座で出仕することになりました。このような大きな法要では一食ごとに全員分の食事を布施して下さる施主がつくことがありますので、施主の方には二の膳付きの御馳走でおもてなしをします。私はこの二の膳付きの御馳走作りを任せられることになりました。

した。

大授戒会の日程も進んだ三日目頃だったでしょうか、大乘寺さんが法要見舞いに来られる、という連絡がありました。その頃故禅師様は、石川県金沢市の大乘寺住職としてその名を知られた方

でありました。仏道を求めるものには厳しくかつ温かく指導してくださる、真の意味で親切な方であるとの評判でありました。一度お会いしたいものだと思っていた方がお出でになられるとの事でしたので、ちょっとワクワク、であります。

輪王寺は故禅師様が学生の頃に寄宿していたというご縁もあって見舞いに来られたのだと思いますが、食事はされるのか、宿泊はどうかなど典座と受付でいろいろと調整をすることになりました。ところが、故禅師様はその日のうちにお帰りになられ

るとのことです、がっかりしました。日ごろ抱える仏道の疑義を明らかにしたいと思つたのですが、残念・無念。

忙しい師家の方に凶々しく話しかけるなんて、虫のいい話でありますけどね。で、典座の仕事に戻って夕食の調理やお昼の片付けをしていると、そこへひょっこり故禅師様が顔を出されました。昔の台所が懐かしかったのか、誰か懐かしい人がいるかと顔を出したのか。お昼も大分過ぎたころだったと思います。

伺ってみると、まだお昼を食べていらつしやらない。施主膳の料理でよろしければすぐご用意できますが、おすすめますとニコツと笑つて、いいのかい？とのこと。板の間に大きめの座布団を敷いて、お膳を並べました。汁ものを温め、煮物を温めてお給仕し、釜めしに火を入れてお勧めすると、恭しく合

掌し、少し背中を丸めて黙々と召し上がられました。拙僧の汚い白衣と前掛けでのお給仕にも関わらず、全部召し上がっていただきました。献立すべてお出しすることではできませんでしたが、それでも結構な量です。きれいに平らげられると、また合掌して軽く頭を下げられました。いやあ、旨かつたよ、ありがとう、さ、帰るかな・・・故禅師様、荷物をもつと台所の勝手口からふらりと外へ出て、そのままお帰りになつてしまわれました。

岡山県洞松寺・鈴木聖道老師でした。

鈴木老師が雲水にむかつて「別事無し」と答えておられる様子をみて、「茶に逢うては飯を喫す」を思い出しました。お茶を飲むのは無心にお茶を飲む、ご飯を食べる時はただご飯をいただく。今を一生懸命に生きる。他に何かあるかい？故禅師様の教えを改めて頂戴した尊い法要となりました。



あれ、いいのかな？？？と思つた瞬間、アツと気づきました。台所へはホントにふらりと立ち寄られただけだったので。お膳を禅師様に無理強いしてしまつたことに気付いた私は、もう冷や汗です。時すでに遅し。禅師様のお姿はもうどこにもありませんでした。故禅師様のお通夜の法要では、小参といって禅問答が行われたのですが、その小参師は私と永平寺での同安居、

この一年

第八教区 龍昌院寺族 神奈川第二宗務所

寺族会会長 石澤 博美

平素より寺族会に対しましてご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。振り返りますと、令和2年はパンデミックにより大きな影響を受けた年でした。寺族会の諸行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、残念に思いつつも健康で安全な再会を祈念する毎日でございます。ご寺院さまの中にはご家族に医療従事者がいらっしゃる方も居られる事と存じます。長期にわたるご尽力に心から感謝を申し上げます。

さて、この一年で「コロナ禍」という言葉はすっかり一般化したしました。仕事や生活環境の変化による不安やストレス、またそれに注意深く対応していく毎日、いつの間にか心身ともに疲れになることもあるのではないかと思います。一方で、不安な時代だからこそ

人々の芯の強さや底力が発揮された一年であったようにも感じます。行動制限は誰にとつてもストレスですが、電話やSNSを通じて励ましかったり、新しい趣味を見つけたり、苦境をできるだけ明るく乗り越えようという前向きさは、人間の持つ強さや生きる力のように映ります。

とは言え、見えない緊張が続く毎日ですので、誰しも気が滅入る事もあると思います。普段は気に留めない些細な事に怒りや無力感を感じてしまう事もあるでしょう。息抜きしながら「お互いさま」「ありがたう」の気持ちで乗り越えたいものです。辛いのはみな同じ。優しい言葉とあたたかい笑顔という智慧をいつも心の片隅に置きたいと思います。

コロナ禍にあっても自然は当たり前時に時を刻みます。自粛生活では季節の変化に敏

感になった方も多いのではないのでしょうか。私はいま、改めて道元禅師の歌が思い出されます。

春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえてすずしかりけりある日、花瓶に挿した花のつぼみが開くのは嬉しいものです。自然が時の流れを知らせてくれます。社会がどのようなにあっても自然は時を刻み、当たり前に移り変わっていく姿を見せてくれるのです。長い緊張の中にあるからでしょうか、その姿に励まされ、自然の営みがとても美しく尊いものに感じられます。皆さま、どうかくれぐれもご自愛くださいませ。そしてまた、笑顔でお目にかかれる日を楽しみにしております。本年も寺族会へのご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

合掌



詠範会からのお知らせ

詠範会会長 山下知子
役員一同

管内御寺院の皆様には常日頃詠範会の活動にご理解ご協力頂き、ありがとうございます。昨年来のコロナ禍により講習会等の活動の自粛を余儀なくされておりますが、各講も色々とお苦勞されていることと存じます。そこで昨年からの活動の現状・講員さん達の様子をアンケートで伺わせて頂きました。その結果をまとめてみましたので、これからの梅花講の運営の参考になさって頂けたら幸いです。コロナの早急の終息と、ご詠歌の発展を祈っております。

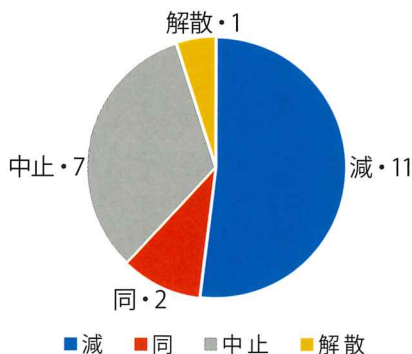
合掌

アンケート集計

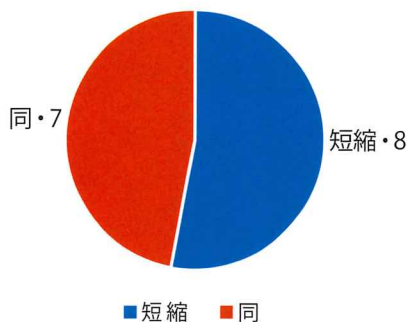
アンケート発送数72通 回答講。21

1. 以前の活動と比べて

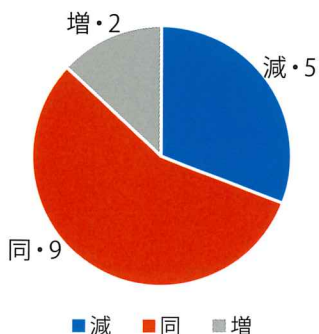
活動の回数



活動時間



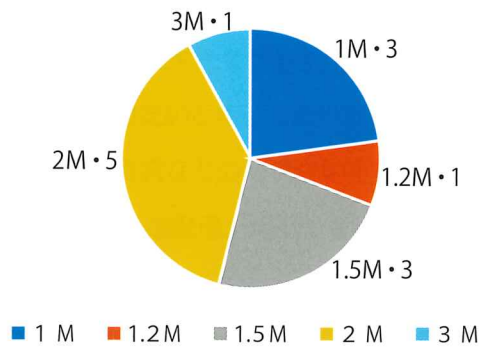
議員さんの人数



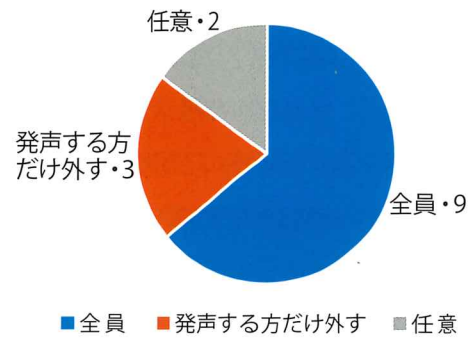
1回での活動での参加人数



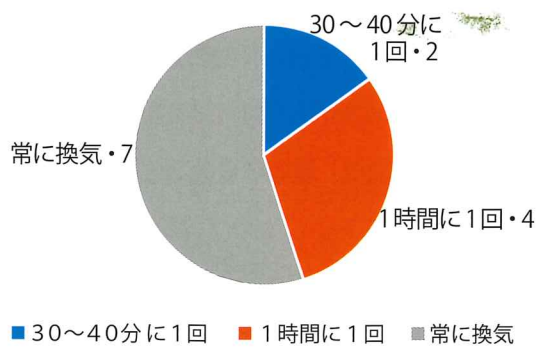
ソーシャルディスタンス



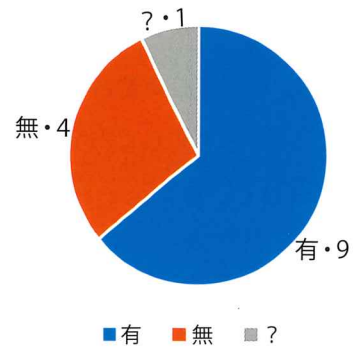
マスクの着用



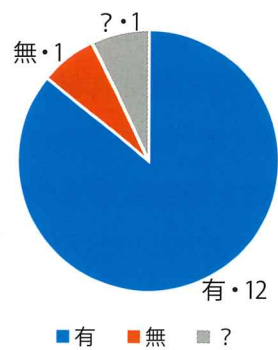
換気の頻度



活動前に室内の消毒



活動後に手指の消毒



2. コロナ下での注意、努力点がございましたら教えてください。

- ・両彼岸の法要には不参としました。
- ・大般若、開山忌、涅槃会などの法要には参加毎月2回のおけいこは無くなり上記の法要にはぶっつけ本番。まあひどいものです。こんなにも…の思いで普段のお稽古の大事さを思い知らされる昨今です。
- ・会食することなく、弁当を持ち帰ってもらう
- ・住職より僧侶用マスクを皆さんに配り、中が広くて唱え易いと好評
- ・「家族が心配する」人はお休みしてもらっています。
- ・自分で体調を考え、その日の都合、体調の良い人だけ参加してもらっています。
- ・残念ながら緊急事態宣言中は活動休止にしております
- ・全体のお稽古は中止にし、個人レッスンのようにしていますが、近頃は全く行っていません。行っていた頃はソーシャルディスタンス2メートル、横並び、窓を開けていました。講員さんが「辞める」と言わないでほしいので必死の努力をしています。
- ・場所の変更：和室⇒本堂 広くてすきま風もあるので
- ・月2回⇒月1回 ・3時間半⇒40分程度に短縮
- ・お茶の時間をなくした
- ・お稽古というより、本堂でご本尊様や仏様方に向かって奉詠、お焼香
- ・余り神経質にならないようにしております
- ・各講員さんが高齢者で日頃から十分に注意していらっしゃるので、重ねて悲観的なことを言わないようにしております。
- ・コロナ禍で、お茶の時間等は止めました。
- ・なるべく寺の行事の時に講員さん達だけで本堂にてお唱えしています。
- ・参加も「無理しない様に」と呼びかけています。不安な人もいますので
- ・お寺に見えたら先ず検温・手指消毒をいたします。
- ・コロナ禍で講員さん方と会う機会が激変したため、電話をかけて会話（10分以内）したり、絵手紙を郵送したり、つながりが切れないようにしている。
- ・梅花の「稽古」となると難しいことがあるので、「お寺にお詣り日」と題して涅槃会・彼岸・花祭り等々寺に足を運ぶ日を決め、本堂より外に向けて梅花の曲（2～3曲）を流して外に譜面台と椅子を置き、テープ合わせて唱えるようにしています。たとえ参加者が1名でも。顔を合わせるだけで喜んでいらっやいます。
- ・コロナ禍の為ではなく高齢化で全員が揃うことはかないません。
- ・室内は常に窓を開けて、講員さんはコート、マフラー着用で集っています。
- ・講員さん方はお茶を飲んでおしゃべりできないことをさみしく思っています。年齢が高い方達なのであまりまたせることが出来ず上記のような取り組みで頑張っています。
- ・とてもとても悩んだのですが、宗務庁、宗務所等の活動状況や地域の公民館サークル、老人会等の活動の様子を判断の基準にして、昨年からは梅花活動はほとんど休みにしています。講員さん自身は「お寺なら…」と慕ってはくられますが、感染拡大に対する警戒心は各々、また家庭内でも異なるので、頑なに長期休講を続けています。只、折々の便りやお供物の配布等をして、今までの絆だけは保つように努めています。
- ・涅槃団子は止めて、今年は5色飴をお配りしました。

3. 講員さん達の様子、ご要望などがありましたらお知らせ下さい。

- ・月1回でもけいこしたいの注文あり今の状態だと無理と思う。101才から90代、80代心配です。
- ・コロナにかからなくとも、どこにも外出しないので「心の病気」にかかりそうだと言っています。
今年は是非検定をやってほしい! 来年生きているか? 元気でいられるか? 心配しています。
- ・早く講習を受けたいと申しております。
 - ・彼岸会、施食会などの法要が中止なり、講員さんたちのやる気がなくなってしまう様、毎月の例会を法要の詠唱(三仏忌、達磨忌、両祖忌等)として参加していただいています。短時間でも講員さんどうしがお互いに会えるのが嬉しいそうです。
- ・寺院内のみの活動で、それなりに満足している様子です。
- ・講員さんの中には基礎疾患のある方もいらっしゃるので各自の判断にお任せして休んでいただいています。
- ・お茶の時間、席の間隔を広げているのですが、講員さん同志、席が近づいてきて、顔と顔を寄せあっておしゃべりをしています。注意はしますが、あまり効果は有りません。おしゃべりが楽しみで来ているのもありますので…。
困った事です。少し、「おどし」もかけるのですがね…!(耳が遠くなっているのもありますかね?) 何か良い方法は無いものですかね?
- ・これからは様々な理由で、今までの世の中のあり方も変化していく事が考えられますが講員さんの目線を大切にこれからの若い世代に受け入れられる工夫をしたいと以前にもまして考えます。
- ・講員さんが個別にお参りの際(お盆、お彼岸など)「みなさん、お元気でしょうか? 会えなくてさみしいです」とおっしゃっていました。
- ・11月の再開の時は、「やっぱりお寺に来て、みんなの顔を見ないと調子が出ない」とも。
- ・講員さんは早く再開したいようですが今の状況ではむずかしいです。
四月八日の花祭りから再開の予定です。
- ・講員6名ですが皆さん高齢のため今は中止しています。早くコロナが終息すること願っています。お世話様です。
- ・お茶も各自持参ですので、最後までマスクは外さない。
- ・コロナの流行に伴い、急に昨年3月頃より10名も増えましたが今までのように月2回のけいこも出来ません。
折角入構して下さった方々が、1日も早く、楽しいけいこをして頂けるようそれぞれに「息抜き歌謡曲」の本を作り、お待ちしています。
これからも楽しい梅花講にしたいと思っています。練習の日を楽しみにして頂けるような講にしたいと願っています。
- ・令和3年2月26日付にて梅花講を解散致しました。
- ・講員さんが介護のお仕事をしていらっしゃるのでは、なかなか再開できないでいます。

私たちの「絵本を送る活動」をめぐる

第三教区 修廣寺 寺族 神奈川第二宗務所
婦人会会長 菅原 陽子

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs (Sustainable Development Goals)

「誰一人取り残さない」を基本理念として、貧困や飢餓、不平等の是正、環境の保全や平和の実現など17項目の目標が定められています。

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1. 貧困をなくそう | 10. 人や国の不平等をなくそう |
| 2. 飢餓をゼロに | 11. 住み続けられるまちづくりを |
| 3. すべての人に健康と福祉を | 12. つくる責任 つかう責任 |
| 4. <u>質の高い教育をみんなに</u> | 13. 気候変動に具体的な対策を |
| 5. ジェンダー平等を実現しよう | 14. 海の豊かさを守ろう |
| 6. 安全な水とトイレを世界中に | 15. 陸の豊かさも守ろう |
| 7. エネルギーをみんなに
そしてクリーンに | 16. 平和と公正をすべての人に |
| 8. 働きがいも経済成長も | 17. パートナリーシップで
目標を達成しよう |
| 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう | |

最近の曹洞宗婦人会の機関誌「きょうら」に「SDGs」に関する記事が載っていました。曹洞宗「宗報」にもそれに関する内容を目にします。さらに、全日仏主導で大本山總持寺において

開催された世界仏教徒会議記念法要の関連記事にもそれがありません。

「SDGs(えすでいーじーず)」とは何なのでしょう。これは「持続可能な開発目標」

と訳され、国連が二〇三〇年までに達成するために掲げた十七の目標です。曹洞宗の「人権、平和、環境」のスローガンもこれにあてはまります。

よく見ますと、第四番目には「質の高い教育をみんなに」という目標があります。

私たち婦人会が設立当初から実施している「カンボジアに絵本を送る活動」は、まさにこれに該当しているのです！

絵本を届けに カンボジアへ

平成二十二年は、曹洞宗婦人会が結成されて三十五周年に当たる年でした。そのときは、大本山永平寺に写経をお納めする活動があり、わが神奈川第二宗務所婦人会からも多くの参加がありました。

ところで、第二宗務所婦人会では、それらの活動に加え、当婦人会の事業として、日本の絵本にカンボジア語のシールを貼った本を持ってカンボジアを訪ね、直接子供達に手渡そうということが計画され、同年二月二十二日～二十七日に実行されました。幸いに二十数名もの参

加があり、思い出の多い行事となりました。

子供達の喜んでる顔が忘れられません。ついこの間のよう気がします。写真には歴代会長(大野様、玄野様、石井様、菅原)や会員さんの姿があります。



①



③



②

絵本を読む子供達を想いつつ

第三教区 修廣寺檀信徒 新井 小夜子

もう十数年も前の事になりませんが、中古の楽器をカンボジアの子供達に送るボランティア活動に参加したことがあります。絵本



(写真①②③④提供) 稲富 前教化主事

④ カンボジア訪問時の子どもたちの様子 (H.22.2.22～2.27) とびきりの笑顔で出迎えてくれました

をカンボジアの子供達に送る活動と伺い、令和元年二月十七日の会に参加しました。日本語をカンボジア語に置き換える作業でした。私はカンボジア語が全く解りませんが、日本の楽しく美しい物語を、カンボジアの子供達が興味深く、楽しく読んでいる姿を想像しながら、丁寧に作業しました。皆で作った日本の絵本を読んだ子供達は、きっと日本を好きになるでしょう。

私もカンボジアの絵本を読んてみたくなりました。カンボジアの言葉を理解したいと思いました。

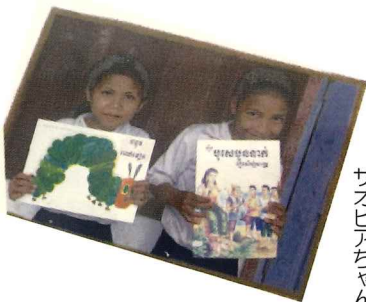
三教区静翁寺 亀野元彰師の御法話では、子育ての実話を例に「待つことの大切さ」を楽しくお話し下さいました。

コロナ禍で令和二年度の絵本づくりが中止になった事は残念ですが、次回はお友達を誘って参加したいと思えます。



「はらぺこあおむし」(偕成社)は、大好きな絵本。妹や弟たちには、本がいっぱいあつて楽しいな。いっぱい勉強して夢をかなえたいです。

ワッターちゃん サオピアちゃん



〈写真提供〉 シャンティ国際ボランティア会



令和三年度の絵本をつくる会は、コロナ禍のため、神奈川県第二宗務所の会議室で会員が集まって活動することは無理かもしれません。

しかし、会員さんにお書き頂いた「I. 絵本作りについて」のアンケートを読みますと、いつもと違う方法でも参加したいという声が多く、予定した冊数を上回るお返事をいただきました。(なお、II. 以下のアンケートについては、次の機会にご報告いたします。)

絵本をつくる会の活動に快くご協力くださった寺院様には心より御礼申し上げます。

また、私共の活動に多少なりとも関心をお持ちの方は、是非、お仲間にお入り下さい。



曹洞宗関東管区教化センター

曹洞宗のYouTubeチャンネル



〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-6 東光寺内

TEL: 048-648-5751 FAX: 048-648-6120

E-mail: info@soto-kanto.net

ホームページ: <http://www.soto-kanto.net/>

YouTubeチャンネル: https://youtu.be/fgIDI_wKf3E



DATA・印刷・製本

株式会社 エスコム

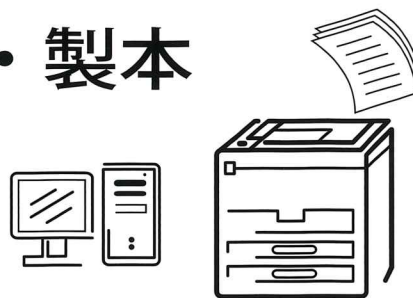
〒216-0015

川崎市宮前区菅生2-23-7 青木ビル1F

TEL 044-977-3746

FAX 044-976-0389

E-mail: k-kimiko@mbr.nifty.com



※ 血脈印刷承ります。包紙、血脈たとう紙(大札紙)50組より～



編集後記

私事ですが、次男は、この春大本山永平寺へ上山しました。永平寺の持ち物リストに体温計とマスクが追加されていました。また大本山総持寺に安居中の長男が新倒和尚さんの荷物点検でも体温計とマスクがあったそうです。御本山においても最大限の感染予防対策を講じている様子がうかがえました。本当に、この一年私達の生活様式がガラッと変わってしまいました。

しかしもっと変わったのは学生生活を終え修行に励んでいる若き僧侶達です。私の92歳になる師匠は「わしらの修行時代は戦中戦後で腹が減って仕方ない時代だった。空腹と寒さが辛かったのと同じように孫達はスマホがないと辛いのだろうな」と言っておりました。

いつの時代もそれぞれの人々の大変さがあります。

「百年も二百年も、千年前だってひとの数だけ物語があったんだ。僕の家族にも、僕の知らない人にも、その人だけのその人しか知らない物語がきつとあったんだよねえ」(鬼滅の刃23巻より引用)

辛いのは今の私たちだけではありません。

今後とも制約された生活が続きますが、それは互いに「一人でも多くの命を守るため」という共通認識を持つことが大切と思っております。

教化主事 加藤